

防災教育や防災活動に取り組む高校生らをたたえる本年度の1・17防災未来賞「ぼうさい甲子園」で、山崎高校(宍粟市山崎町加生)が高校生部門の最優秀賞「ぼうさい大賞」に選ばれた。

昨年度も優秀賞を獲得しており、2年連続の入賞。地元自治会と一緒に防災マップを作成したことが評価された。1月7日に県公館(神戸市中央区)で表彰式がある。(3面参照)

地域で防災マップ 最優秀

山崎高「ぼうさい大賞」避難に役立てて



ぼうさい甲子園で高校生部門の大賞を受賞した山崎高校生活創造科の生徒＝宍粟市山崎町加生

同甲子園は県などが主催。小学生から大学生までそれぞれの部門で大賞が選ばれ、その中からグランプリが決まる。高校生の部には全国から44校の応募があったという。

同校は大地震の発生が予想される山崎断層上にある。東日本大震災後の2013年から防災訓練を始めた。15年度は地域の高齢者世帯を訪問して災害時要援護者リストを作成し、昨年

度の同甲子園で優秀賞を受賞した。

今回、審査対象になったのは16年度の活動で、同校生活創造科の2年生38人を中心に、地元自治会の案内で地域を訪問。住宅地図に高齢者世帯や自治会長宅、消火栓の場所、非常時の避難経路などを書き込み、詳細な防災マップを作った。

子ども用の非常持ち出し袋も作製。幼児用のリュックサックを縫い、非常食や紙おむつなどをセットにしてイベント時に販売した。

こうした継続的な活動が、地域性や獨創性があると評価されたという。

リーダーを務め、表彰式で活動内容を発表する3年の三村麻耶さん(18)は「防災マップは住民の案内で作製したので正確。災害時はこれを活用して避難してほしい」。八木みさきさん(18)は「防災面で高校生ができることは多い。この経験を生かし、災害時に貢献したい」と話していた。

(古根川敦也)